

内科学〈血液・腫瘍内科分野〉

担当指導医師

●本院

教授：石田 陽治

准教授：伊藤 薫樹

講師：村井 一範

助教：菅原 健、小宅 達郎、筑紫 泰彦

非常勤講師：宮入 泰郎、澤田 賢一、安川 正貴、張替 秀郎、湯尻 俊昭

基本方針：

高次臨床実習の目的は、5学年の臨床実習で修得した診察法および血液内科学を含めた一般医学知識に基づいて、血液疾患患者の病態および問題点を的確に把握し、病態に即した治療方針を示すことができるようになることにある。よって担当指導教官のもとで以下の実習を行う。

実習内容：

1. 実習内容

- (1) 患者の病歴聴取
- (2) 理学的所見を説明する。
- (3) 検査所見を説明する。
- (4) 診断計画をたてる。
- (5) 骨髄検査所見を説明する。
- (6) 診断根拠を説明する。
- (7) 問題点を抽出し病態との関わりを説明する。
- (8) 問題点に対する方針をたてる。
- (9) EBMに基づいた治療方針を立案し説明する。
- (10) 白血球減少患者の感染症に対する予防および治療の基本を説明する。
- (11) 個々の患者の長期的な方針を立案し説明する。
- (12) 患者・家族との面談に参加し、面接方法を知る。

2. 医局行事

- (1) 総回診（火：9時～）
- (2) グループミーティング（月 16時～）
- (3) 症例検討（金：9時～）
- (4) 標本検討会（木：17時～）
- (5) 抄読会（火：8時30分～）に参加し、担当患者についてプレゼンテーションを行う。但し、関連病院についてはその施設の方針に従う。

3. 基本的手技の実際

下記の医療行為の意義を理解し、一部の手技については担当教官の指導・管理のもと

に実際に行う。

- (1) 全身の診察
- (2) 静脈血採血
- (3) 動脈血採取、血液ガス測定

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用区分	使用機器・器具等の名称	個数	使用目的
診断用機械	心・腹部超音波検査装置	1	患者の評価に使用する。
診断用機械	骨髄穿刺針	5	骨髄検査に使用する。
診断用機械	ライト液・ギムザ液	各1	標本の染色に使用する。
実習用機械	骨髄塗抹標本	20	標本実習に使用する。
実習用機械	スライドガラス	1	末梢血実習に使用する。
視聴覚用機械	マルチディスカッション顕微鏡	1	血液標本を同時に観察する。
視聴覚用機械	ノート型 PC (I-Book G3)	1	臨床実習における講義に使用する。
視聴覚用機械	デジタルカメラシステム (PixeraPro150ssPro150ss)	1	臨床実習における症例検討
その他	パソコン (I-mac17 ｲﾝﾁ 1.83GhzIntelCoreDuo)	1	臨床実習における症例検討などのデータ作成
その他	複合機 (DocuCentre II C3300PFS9)	1	臨床実習における資料作成
その他	臨床データ統計処理用端末 (VGN-G1KBN)	1	講義資料作成
その他	ノートパソコン (2.16GHz Intel Core2Duo)	1	講義資料作成
視聴覚用機械	パソコン (MacBook 2.1GHz Intel Core 2 Duo-White)	1	講義・実習資料作成
視聴覚用機械	学術画像参照用端末 (MB324J/A-D)	1	講義・実習資料作成
視聴覚用機械	生体情報モニター (DS-7100)	1	臨床実習における患者の病態検討
視聴覚用機械	パソコン iMac (MB419J/A)	1	講義・実習用テキスト作成
視聴覚用機械	デスクトップパソコン iMAC24インチ (MB419J/A)	1	講義・実習用テキスト作成
視聴覚用機械	パソコン (MB419J/A)	1	講義・実習用テキスト作成
講義実習用機器	MacBook Pro 15 インチ (MC371J/A)	1	講義・実習用
実習用機器	パソコン (MC511J/A)	1	臨床実習用
実習用機器	ノートパソコン (MacBookPro) (MC723J/A)	1	臨床実習用
実習用機器	デスクトップパソコン・一式 (Optiplex780 スモールシャーシ)	1	臨床実習用
講義実習用機器	カラー複合機 (DCIV C3370PFS)	1	講義実習用
実習用機器	ノートパソコン (MC723J/A)	1	臨床実習用